

付録：大学でのノートテイク

1.1. 大学1年生あるある ～ノートがとれない!～

高校生までは、ノートといえば‘先生が板書を作ってくれるのを待って、それを書き写す’というものだったかもしれません。しかし、大学の授業では基本的に「書き写すための板書」は提供されません。なぜなら大学の授業は、皆が一斉に何かを覚えることを目的としていないからです。大学において授業は、学生個々人が、新たな知見を開拓したり考察したりするために提供されます。よってその記録であるノートは、学生個々人が、自らの知見や思考に基づいて、主体的にとらなければなりません。また、授業の最適な形態は分野や先生ごとに異なるため、様々なスタイルで提供されます。つまり大学生は、様々なスタイルの授業に順応しながら、主体的にノートをとるという、ハイレベルな技術が必要なんです。



板書最小限派



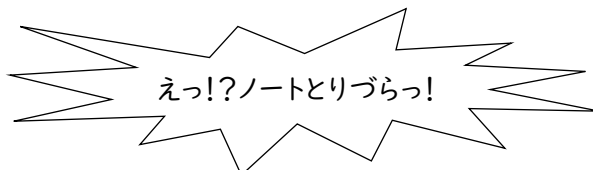
情報量多め派



ひたすら読む派



ひたすら話す派



授業では、資料や配布物が配られるとは限りません。そういった場合、ノートはテストやレポートの大事な生命線となります。

それでは、どのようにノートをとればいいのでしょうか。もちろん一番良いのは、自分がとりやすいようにとることです。ただ、まだ1年生で慣れていない人も多いと思いますので、以下にポイントを整理し、例を紹介しておきますね。

1.2. 大学での‘主体的ノートテイク’のポイント —「丸写し」から脱却しよう—

「主体的なノートテイク」を実践するためには、まず板書やスライドの「丸写し」から脱却することが重要です。脱却するためのポイントを、3つ挙げます。

① 先生の話聞きながら、要点を抜粋して記録する。

キーワードやアウトラインを意識しながら、ビジュアル化して記録します。

② 自分の考えを書き留めておく。その際、自己と他者の意見は分けて書く。

先生の話聞きながら、自分の頭に思い浮かんだ疑問やアイデアを書き留めておくと、後の自身の学習・研究のヒントになります。ただし、先生や他者の見解と、自分の見解は、分けて書くことが重要です(なぜなら、誰のデータやアイデアであるかという点は、著作権や特許など重要な問題に繋がるからです。ノートの段階からきっちり分けておきましょう!)。例えば、「?欄」や

「おもいつき欄」を作るなど、自分の疑問や意見を書くところ確保しておいたり、自己／他者によってマークを使い分けたりすると有効です。

③ 講義中の殴り書き欄と、復習時にまとめる欄を分けておく。

授業中は、内容についていくことが最も重要なので、殴り書きでOKです。ただし、明日の自分ができるようにする工夫が必要です。例えば、後でゆっくりまとめる欄を分けておくことなどが有効です。

【例※】

※この例は、いわゆる「コーネル式ノート」を参考にしながら、坂井が自分の書きやすいように書いたノートです。あくまでも一例であり、必ずこのように書かなければならないというわけではありません。自分にあった書き方を見つけましょう!

【参考文献】Cornell University Learning Strategies Center “The Cornell Note Taking System” <https://lsc.cornell.edu/how-to-study/taking-notes/cornell-note-taking-system/> [2024/4/15 最終閲覧] Pauk, W., & Owens, R. J. 2010. “How to study in college TENTH EDITION”.USA: CengageLearning.https://pelgulinna.weebly.com/uploads/5/1/6/7/5167346/how_to_study_in_college_10th.pdf [2024/4/15 最終閲覧]

